

提案資料の記入要領

対象ファイル

提案様式：「〇〇様式0～3.xls」

記入例：「記入例0～3.xls」

※ 複数の提案がある場合は、提案様式の Excel ファイル（「〇〇様式0～3.xls」）を提案品目ごとに作成し、ファイル名の「〇〇」の部分提案品目名に変更してください。

1. 提案品目自己チェック票【様式0】－物品・役務共通

- 提案資料提出の前に、【様式0】を用いて、提出予定の提案について必ず自己チェックを行ってください。【様式0】のC欄のすべてに○印が記入できない提案は、受け付けられませんので提出をご遠慮ください。

2. 特定調達品目提案書【様式1】－物品・役務共通

- 提案者名、代表者名、所在地、担当者連絡先を漏れなく記入してください。
- なお、担当者連絡先については、ヒアリングを実施する場合の連絡、提案内容についての問い合わせ、検討結果の通知等に当たっての連絡先とさせていただきます。

3. 提案品目の概要【様式2】－物品・役務共通

(1) 提案品目の分野

- 該当する分野名称を選択肢（現在の「基本方針」の分野名称がメニュー化されていません）から選んでください。
- 提案品目が該当する分野がなく「その他」を選択された場合は、一般的な分野の名称をご検討いただき記載してください。

(2) 提案品目名

- 一般的で分かりやすい名称を記載してください。（具体的な商品名ではなく、必ず品目の類型を記載してください。）
- また、昨年度提案いただいた品目を再度提案される場合は、昨年度の提案品目名及び提案者名を記載してください。

(3) 提案品目の概要

- 提案品目名のみでは、品目の内容が分かりにくいものについては、その内容、対象範囲等の説明を記載してください。
- 「数年後を目途に市場化が見込まれる製品等」を念頭に置いた品目については、市場化の時期についても明記してください。

(4) 提案品目の環境負荷低減の特徴

- (6) の比較対象と比較した場合の提案品目の環境負荷低減上の特徴を簡潔に分かりやすく記載してください。

(5) 判断の基準（案）

- 現在の「基本方針」を参照いただき、提案される品目が満足すべき環境配慮の内容（検証可能なもの）をご検討いただき記載してください。
- 役務（サービス）に係る提案品目については、業務の提供に当たって使用する物品、業務の実施方法等についての条件を記載してください。

(6) 比較対象

- 提案品目の環境負荷低減に関する特性等を評価する上で比較対象となる物品（提案品目と同種の物品で、従来から生産・供給されており、既に普及しているものなど）の名称及び仕様を記載してください。
- 導入促進自体が環境負荷低減につながるもの、役務（サービス）に係る提案品目で比較対象を設定することが困難な場合は、記載しなくても結構です。

(7) 既存の環境基準、環境ラベル等

- 提案品目に関する既存の環境関連基準、環境ラベル等（法律を含む）がある場合はその名称及び内容を記載してください。ない場合は、「なし」と記載してください。

4. 提案品目の特性【様式3-1】及び【様式3-2】—物品の場合

- 「数年後を目途に市場化が見込まれる製品等」を念頭に置いた品目については、市場化時の計画に基づいて記載してください。

4-1 提案品目の特性【様式3-1】（環境負荷低減に関する特性）について

(1) 環境負荷低減に関する特性

① ライフステージ別・環境負荷項目別の環境負荷の評価

「①資源採取」、「②製造・流通」、「③使用」及び「④循環・廃棄」の各ライフステージにおいて、比較対象との比較を行い、①～⑧の各環境負荷項目について「優れる」、「同程度」、「劣る」のいずれか該当する欄の口を選択して✓（チェック印）を付けてください。なお、同一ライフステージ・同一環境負荷項目において、比較の困難な「優れる」点と「劣る」点がある場合は、両方に付けてください。

なお、各環境負荷項目に該当する物質等の例は、次頁の表1のとおりです。

- 各環境負荷項目について「優れる」又は「劣る」が存在する場合には、比較対象とする物品との環境負荷の内容と程度（「優れる」点又は「劣る」点）に関する自己評価について記入例を参考に必ず記載してください。
- 「環境負荷の内容と程度に関する自己評価」は、ライフステージごとに可能な限り定量的かつ簡潔に記載してください。
- 「環境負荷の内容と程度に関する自己評価」の記載根拠を示す数値等による客観的データを別途添付するとともに、「添付資料欄」に添付資料番号、資料名等を記載してください。

表1 環境負荷項目に該当する物質等の例

環境負荷項目	該当する物質等の例
① 資源の枯渇	・化石燃料、鉱物資源、水等
② 地球温暖化	・二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、HFC、PFC、六ふっ化硫黄
③ オゾン層破壊	・特定フロン（CFC）、ハロン、四塩化炭素、ハイドロクロロフルオロカーボン（HCFC）等
④ 大気汚染	・大気汚染防止法対象物質等
⑤ 水質汚濁	・水質汚濁防止法対象物質等
⑥ 化学物質汚染	・PRTR 法対象物質等
⑦ 固形廃棄物の発生	・固形廃棄物
⑧ その他の環境負荷	・自然の改変、感覚公害（騒音、振動、悪臭）等

② ライフサイクル全般にわたる環境負荷の評価

ライフサイクル全般にわたる環境負荷に関する評価を行い、トレードオフの有無をチェックしてください。

- ・ ライフサイクル全般にわたって、トレードオフが発生しない場合は「トレードオフはない」を選択してください。
- ・ トレードオフはあるが、比較対象品目と比べて、ライフサイクル全般にわたる環境負荷が低減されている場合は「トレードオフはあるが、以下の観点より比較対象よりも環境負荷低減上、有利と考えられる」を選択し、その理由を記載するとともに、根拠となる数値等の客観的データを別途添付してください。

4-2 提案品目の特性【様式3-2】（環境負荷低減以外に関する特性）について

(2) 基本的な機能・品質の確保

- ・ 物品として要求される基本的な機能・品質、その確保の状況を記載してください。
- ・ 法的に満足する必要がある品質等がある場合は、その法律の名称、内容、その満足状況等を記載してください。

(3) 生産・供給状況

- ・ 提案品目と同種の物品の製造等を行っている事業者のうち、どの程度の割合の事業者が対応可能か、提案品目と同種の物品の生産量のうちどの程度の割合の物品が該当するかなどを記載してください。
- ・ 提案する基準を満足する具体的な製品を最大 10 製品まで列記し、その仕様の概略が分かる資料を必ず添付してください。（カタログ等でも結構です。）
- ・ 欄が足りない場合は、別途資料を添付することとし、行の挿入等を行わないでください。

(4) 価格

- ・ 比較対象となる物品とのコストの比較を生産量等の諸条件に基づき記載してください。
- ・ 提案する基準を満足する物品及び比較対象とする物品の標準的価格又は価格帯を記載してください。

(5) 他の環境負荷低減手法

- 提案品目と同種の物品で、今回提案された判断の基準（案）に対応する以外の手法で環境負荷低減を図っているものが市場に供給されている場合は、その手法を記載してください。

(6) その他

- その他必要と考える事項を記載してください。

5. 提案品目の特性【様式3】－**役務**の場合

- 「数年後を目途に市場化が見込まれる製品等」を念頭に置いた品目については、市場化時の計画に基づいて記載してください。

5-1 環境物品の使用による環境負荷低減に関する特性

(1) 使用する環境物品の種類

- 提案する基準において、当該役務の提供に当たり環境物品を使用することとしている場合は、その種類と仕様、比較対象となる物品（使用する環境物品と同種の物品で、従来から使用されており、既に普及しているもの）の仕様を記載してください。
- 欄が足りない場合は、別途資料を添付することとし、行の挿入等を行わないでください。

(2) 使用する環境物品の特性

- (1) で記載した「使用する環境物品の種類」ごとに、比較対象となる物品と比較して、その環境負荷低減に関する特性を記載してください。
- 複数種類の環境物品を使用することとしている場合は、(2) 欄の写しを作成し、記載してください。

① 使用する環境物品の種類

- (1) に記載した「使用する環境物品の種類」を記載してください。

② 環境負荷低減に関する特性

- 比較対象となる物品と比べて、提案において使用することとする環境物品の環境負荷低減に関する特徴を、環境負荷項目ごとに記載してください。
- 資源採取、製造・流通、使用、循環・廃棄の各段階について、該当内容を記載してください。
- 比較対象となる物品と比べて環境負荷増大の懸念事項がある場合については、その内容と程度を必ず記載してください。
- 比較対象となる物品と同程度の場合はその旨を記載してください。
- 環境負荷低減に関する特性の記載根拠を示す数値等による客観的データを別途添付してください。

③ 基本的な機能・品質の確保

- 物品として要求される基本的な機能・品質、その確保の状況を記載してください。

- 法的に満足する必要がある品質等がある場合は、その法律の名称、内容、その満足状況等を記載してください。

④ 生産・供給状況

- 提案において使用することとする環境物品と同種の物品の製造等の事業者のうちどの程度の割合の事業者が対応可能か、当該物品と同種の物品の生産量のうちどの程度の割合の物品が該当するかなどを記載してください。
- 提案する基準を満足する具体的な製品を最大 10 製品まで列記し、その仕様の概略が分かる資料を必ず添付してください。(カタログ等でも結構です。)
- 欄が足りない場合は、別途資料を添付することとし、行の挿入等を行わないでください。

⑤ 価格

- 従来使用していた物品とのコストの比較を生産量等の諸条件に基づき記載してください。
- 提案する基準を満足する物品及び比較対象とする物品の標準的価格又は価格帯を記載してください。

⑥ 他の環境負荷低減手法

- 提案において使用することとする環境物品と同種の物品で、今回提案された判断の基準(案)に対応する以外の手法で環境負荷低減を図っているものが市場に供給されている場合は、その手法を記載してください。

5-2 環境負荷低減に資する役務に関する特性

(3) 環境負荷低減に資する役務の実施方法

- 提案する基準において、当該役務の提供に当たっての環境負荷低減に資する業務の実施方法を規定している場合は、その業務内容と方法、比較対象となる業務の実施方法を最大5つまで記載してください。
- 欄が足りない場合は、別途資料を添付することとし、行の挿入等を行わないでください。

(4) 業務の実施方法による環境負荷低減に関する特性

- (3) で記載した「環境負荷低減に資する方法を採用する業務内容」ごとに、比較対象となる業務の実施方法と比較して、その環境負荷低減に関する特性を記載してください。
- 環境負荷低減に資する方法を採用する業務内容を複数規定している場合は、(4) 欄の写しを作成し、記載してください。

① 環境負荷低減に資する方法を採用する業務内容

- (3) に記載した「環境負荷低減に資する方法を採用する業務内容」を記載してください。

② 環境負荷低減に関する特性

- 比較対象となる業務の実施方法と比べて、提案において規定する環境負荷低減に資する方法を採用する業務内容の環境負荷低減に関する特徴を、環境負荷項目ごとに記載してください。
- 比較対象となる業務の実施方法と比べて、環境負荷増大の懸念事項がある場合については、その内容と程度を必ず記載してください。
- 比較対象となる業務の実施方法と同程度の場合はその旨を記載してください。
- 環境負荷低減に関する特性の記載根拠を示す数値等による客観的データを別途添付してください。

(5) 役務全体についての評価

① 供給状況

- 提案する基準に従って当該役務を提供できる主な事業者、当該役務を提供する事業者のうち提案する基準を満足することが可能な事業者の割合などを記載してください。

② 価格

- 従来からの標準的な方法で当該役務を提供する場合と、提案する基準に従って当該役務を提供する場合とのコストの比較を記載してください。

③ その他

- その他必要と考える事項を記載してください。